

不登校支援等の実践事例

学校向け

文部科学省委託

「不登校・いじめ対策等の効果的な活用の推進に向けた調査研究」



動画構成

CHAPTER 1

データから見る不登校支援等の特徴

各種調査の分析結果

CHAPTER 2

不登校支援等の実践事例

ヒアリングから見た支援事例の全体像 / 具体的な実践事例の紹介

CHAPTER 3

御自身の学校での実践に向けて

振り返りのポイントや参考資料の紹介

動画構成

CHAPTER 1

データから見る不登校支援等の特徴

各種調査の分析結果

CHAPTER 2

不登校支援等の実践事例

ヒアリングから見た支援事例の全体像 / 具体的な実践事例の紹介

CHAPTER 3

御自身の学校での実践に向けて

振り返りのポイントや参考資料の紹介

使用しているデータについて

本調査研究では、全国の教育委員会（悉皆）と公立小中学校（抽出/各1100校程度）を対象として、令和4年度の不登校支援等に関する取組状況についてのアンケート調査を実施し、児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査等のデータと組み合わせて分析を行った。

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の
諸課題に関する調査（平成30年度～令和4年度）

新規アンケート調査

全国学力・学習状況調査（令和4年度）

学校基本調査（令和4年度）

令和6年6月7日

関係都道府県立・市区町村立学校 御中

文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課

不登校・いじめ対策等の効果的な活用の推進に向けた調査研究について（依頼）

平素より、文部科学行政に御理解・御協力を賜り厚く御礼申し上げます。
令和4年度「児童生徒等の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果においては、小・中学校の不登校児童生徒数やいじめ重大事態の発生件数が過去最多となり、極めて憂慮すべき状況となっています。
こうした状況を受け、文部科学省では本年度「不登校・いじめ対策等の効果的な活用の推進に向けた調査研究」を実施し、不登校・いじめ対策等に係る教育委員会や学校における体制構築や取組状況が、不登校・いじめ等の予防や解消に及ぼす効果について研究を行ってまいります。調査研究の一環として、この度アンケート調査を実施するはこびとなりました。
つきましては、アンケート調査についてご協力を賜りたく、ご依頼のご連絡を差し上げる次第です。ご多用のところ誠に恐れ入りますが、下記回答フォームより、WEB アンケート調査への回答をお願いいたします。
なお、標記調査研究は文部科学省から三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社に委託して実施しております。

記

1 送付書類
① 不登校・いじめ対策等の効果的な活用の推進に向けた調査研究について（依頼）※本資料
② アンケート調査項目一覧（学校用）

2 WEB 回答フォーム
URL（<https://rsch.jp/d9c1d55ee3316143/login.php>）または右の二次元コードからアンケートフォームにアクセスし、調査にご回答いただきますよう、お願いいたします。

3 所要時間
30 分程度（令和4年度に在籍されており、おおむねの状況を把握されている方のご回答を想定した所要時間となっております）

4 回答期限
令和6（2024）年7月1日（月）17:00
※回答は必須となりますので、必ず期限までにご回答ください。



Point

1

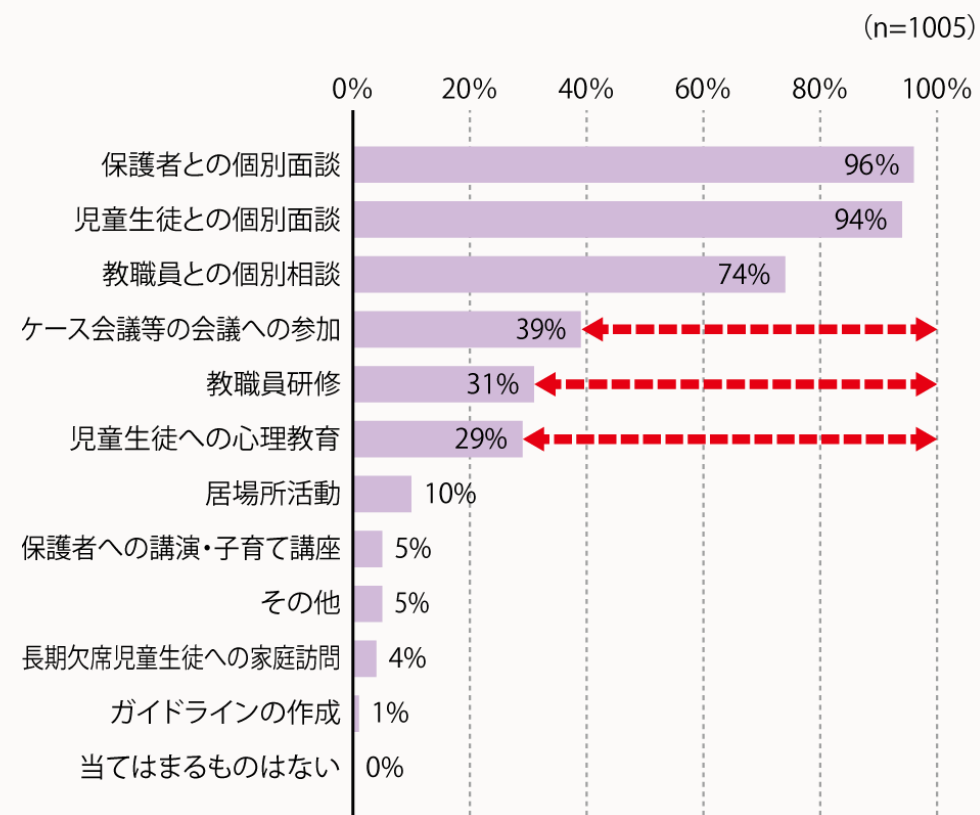
**SCの職務内容が多様である学校ほど、
多様な関係者の関与等が進んでいる**

Point
1

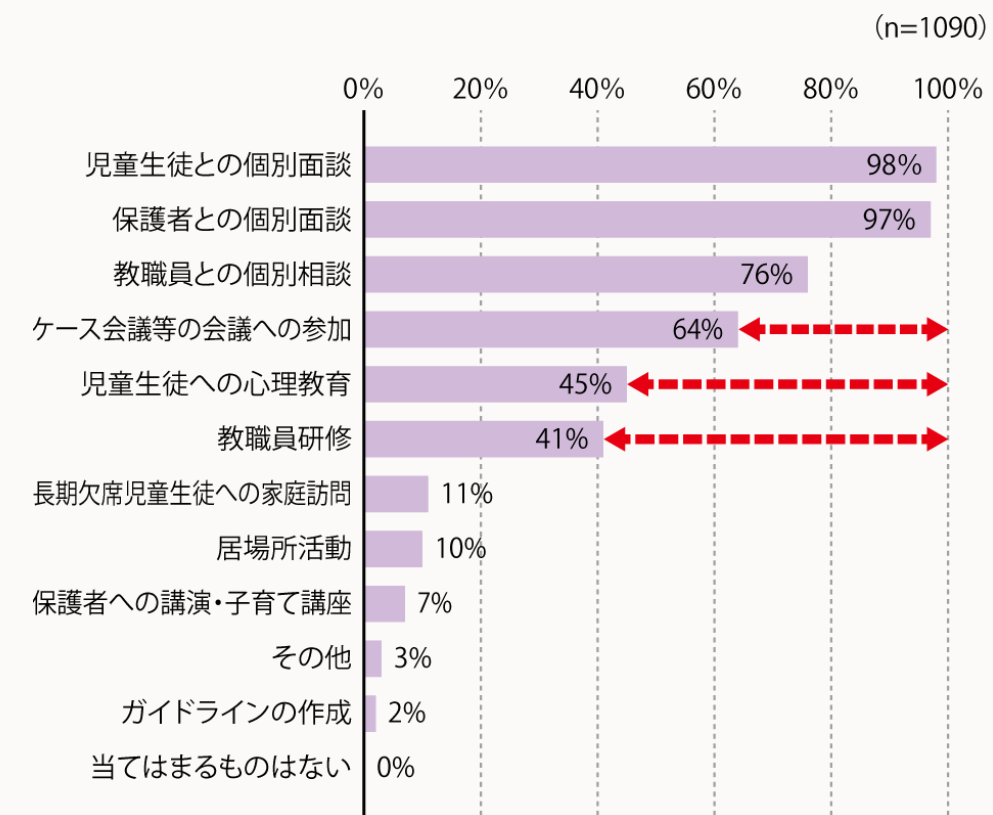
SCの職務内容が多様である学校ほど、多様な関係者・機関が関与している

- 小学校・中学校ともに、9割以上の学校でSCが配置されており、児童生徒や保護者との個別面談は、100％に近い割合で実施されている。
- 一方、児童生徒への心理教育、教職員研修、ケース会議等の会議への参加は、実施していない学校も多い。

【図表】 SCの職務内容（対象：小学校）



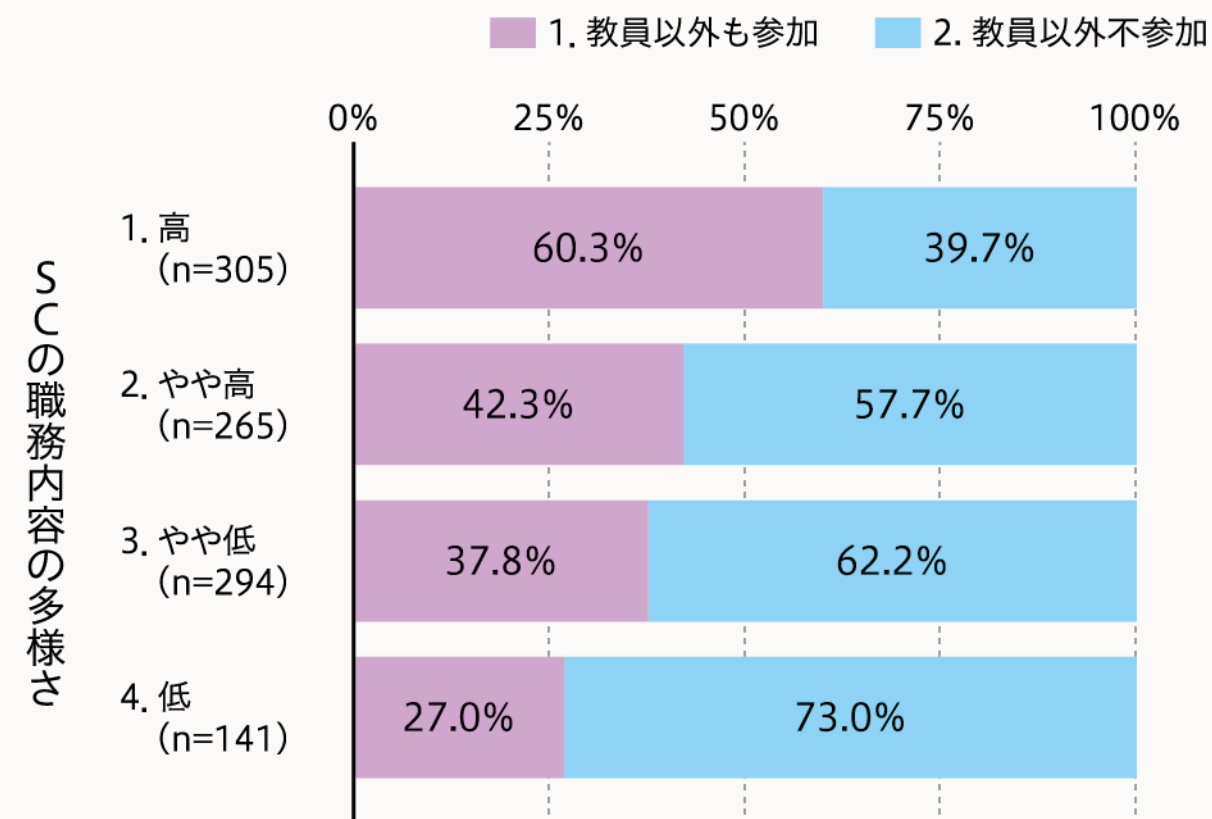
【図表】 SCの職務内容（対象：中学校）



- SCの職務内容が多様である小学校では、いじめ防止対策組織の参加者が多かったり、多様な教職員がケース会議に参加していたりする等、**多様な関係者・関係機関が不登校支援に関与していることがうかがえる。**
- 同様に、SCの職務内容が多様である中学校では、不登校支援に関する連携機関が多様な傾向が見られる。

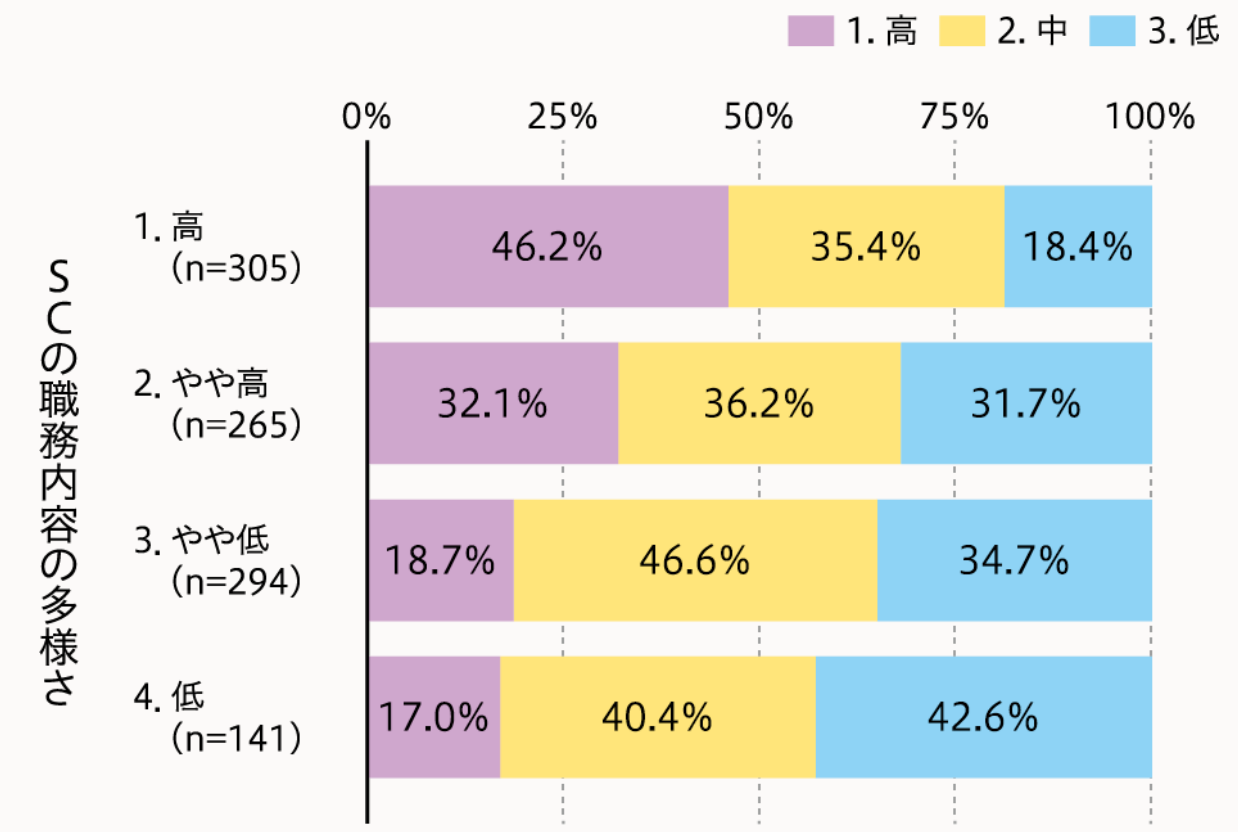
【図表】

SCの職務内容別に見た、
いじめ防止対策組織の参加者（対象：小学校）



【図表】

SCの職務内容別に見た、
ケース会議に参加する教職員（対象：小学校）



Point

2

**未然防止・早期対応と全ての児童生徒向けの
教育活動は相互に関係性がある**

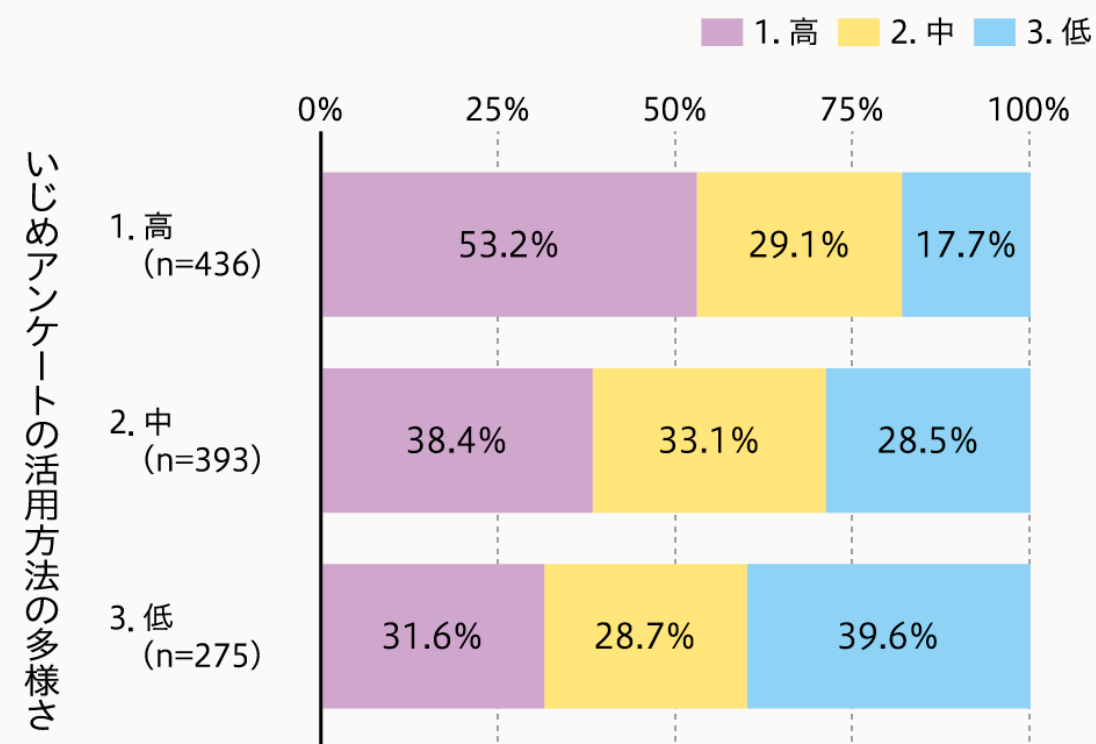
Point
2

未然防止・早期対応と全ての児童生徒向けの教育活動は相互に関係性がある

- いじめアンケートの活用方法が多様である小・中学校では、ケース会議に参加する教職員も多様である等、体制面の充実と関係性があることがうかがえる。
- 心の健康観察を実施している小・中学校では、チームティーチング等の個に応じた教育を実施していることが多い。

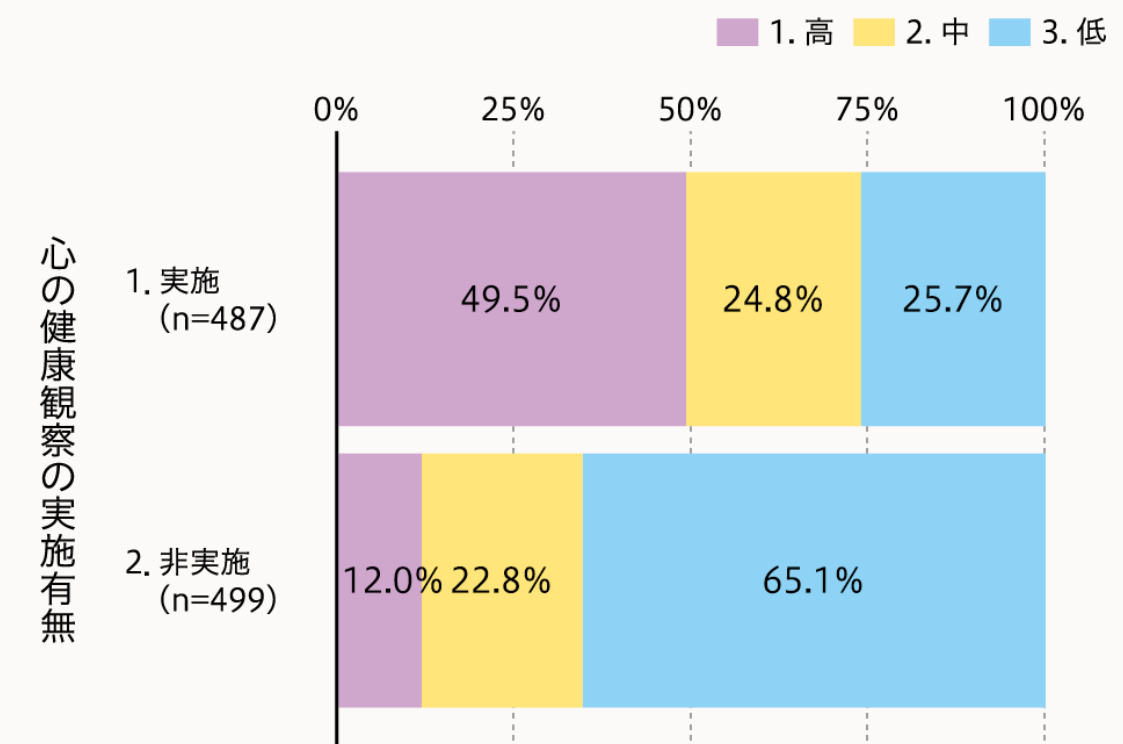
【図表】

いじめアンケートの活用状況別に見た、
ケース会議参加の教職員（対象：中学校）



【図表】

心の健康観察の実施有無別に見た、
個に応じた教育の実施状況（対象：中学校）



Point
3

**校則見直し等の全ての児童生徒向けの
教育活動は不登校支援等の取組に係りがある**

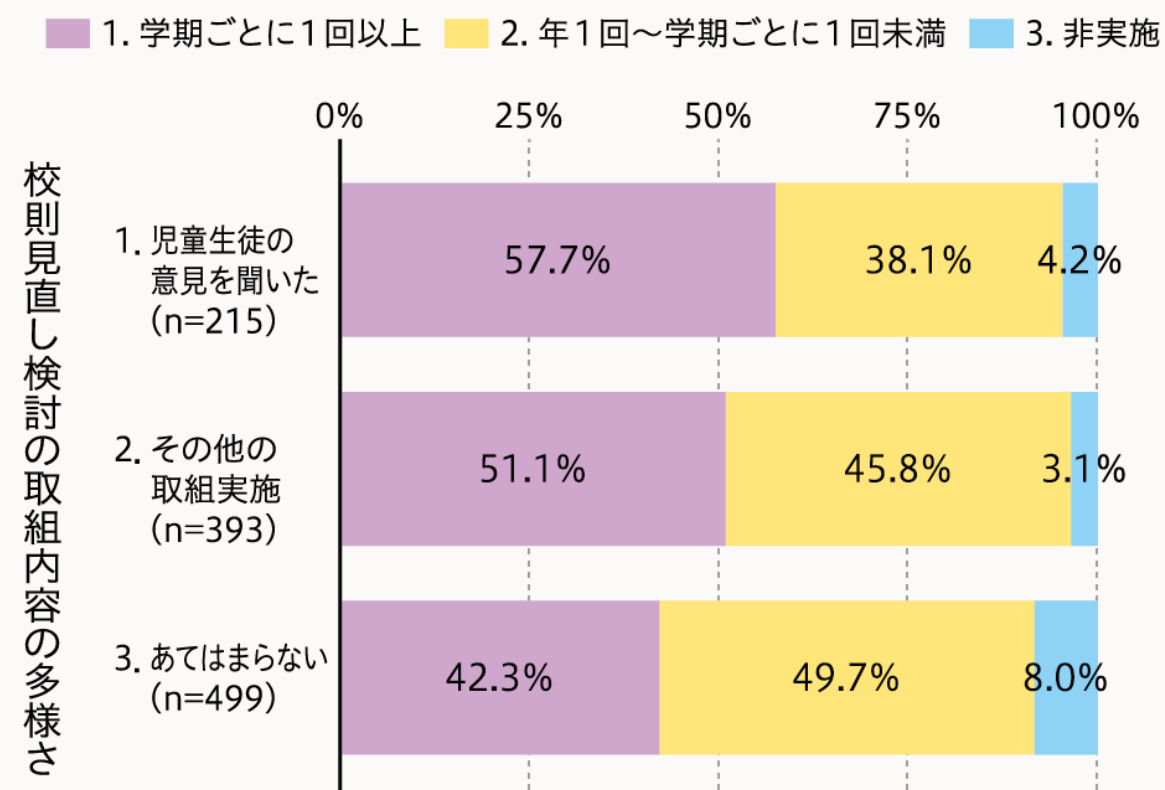
Point
3

校則見直し等の全ての児童生徒向けの教育活動は不登校支援等の取組に関係性がある

- 小中いずれも、校則の見直しに当たって様々なことに取り組んでいる学校では、生徒指導に関する研修や会議の開催頻度が高く、様々な取組との間に関連が見られた。

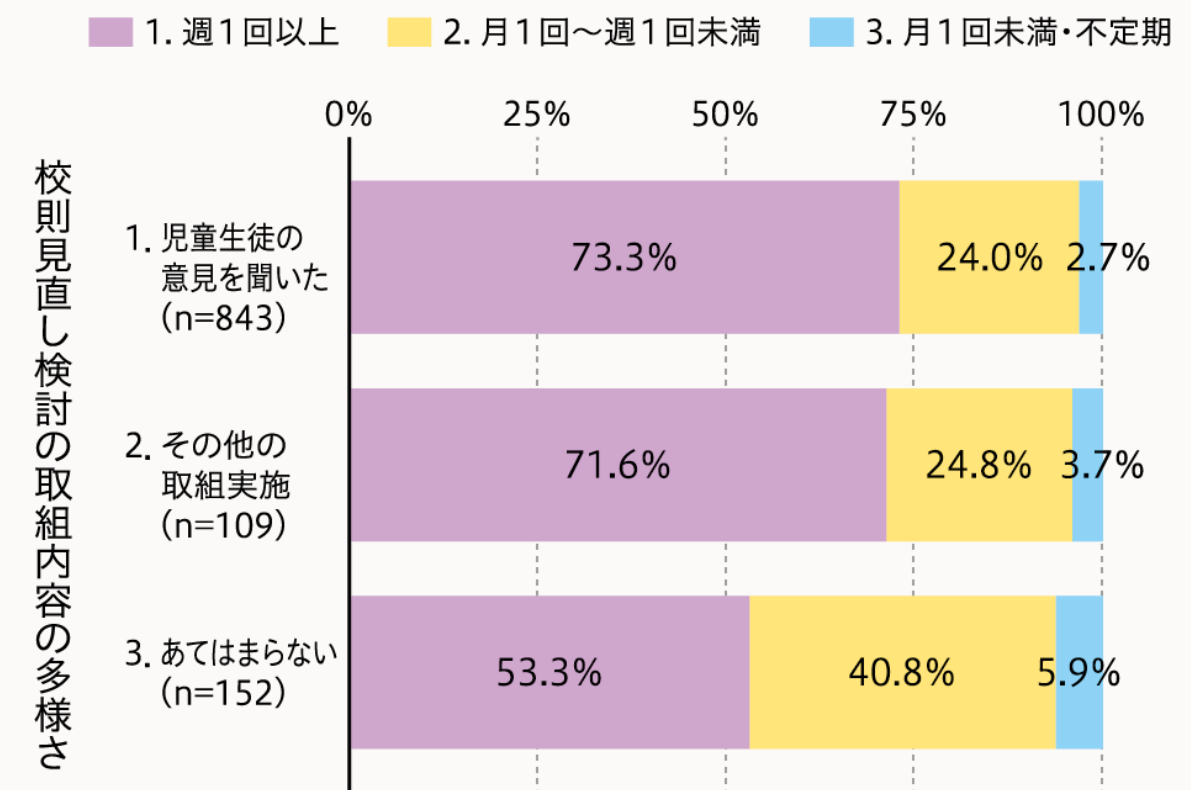
【図表】

校則見直し検討の取組状況別に見た、
全教職員を対象とした
生徒指導研修の実施頻度（対象：小学校）



【図表】

校則見直し検討の取組状況別に見た、
生徒指導部会の開催頻度（対象：中学校）





過去5年間の アウトカムの経年推移状況の分類

Point

4

過去5年間のアウトカムの経年推移状況の分類

平成30年度から令和4年度までの児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果より、「長期欠席者数」「不登校者数」「不登校新規発生数」の3つのアウトカムデータの経年推移状況を分析し、下記4パターンに分類した。

高発生持続型 各年度のアウトカムデータが一貫して全国平均よりも高い群

高発生移行型 アウトカムデータが全国平均より低かったが、途中から高くなった群

低発生持続型 各年度のアウトカムデータが一貫して全国平均よりも低い群

低発生移行型 アウトカムデータが全国平均より高かったが、途中から低くなった群

動画構成

CHAPTER 1

データから見る不登校支援等の特徴

各種調査の分析結果

CHAPTER 2

不登校支援等の実践事例

ヒアリングから見た支援事例の全体像 / 具体的な実践事例の紹介

CHAPTER 3

御自身の学校での実践に向けて

振り返りのポイントや参考資料の紹介

動画構成

CHAPTER 1

データから見る不登校支援等の特徴

各種調査の分析結果

CHAPTER 2

不登校支援等の実践事例

ヒアリングから見た支援事例の全体像 / 具体的な実践事例の紹介

CHAPTER 3

御自身の学校での実践に向けて

振り返りのポイントや参考資料の紹介

紹介する実践事例の全体像

事例① 「生徒指導における基盤・体制づくり」

▶ 児童が多様な大人と関わり、主体性を発揮（酒田市立亀ヶ崎小学校）

事例② 「全ての児童生徒への教育活動」

▶ 学年担任制により、生徒が多くの教職員と関わる機会を（美濃市立昭和中学校）

事例③ 「未然防止・早期対応」

▶ 小規模校の利点を活かした早期の家庭訪問といじめアンケートの活用（行橋市立今元中学校）

事例④ 「困難課題対応」

▶ 校内別室の段階的活用（栗東市立栗東西中学校）

紹介する実践事例の全体像

事例① 「生徒指導における基盤・体制づくり」

▶ 児童が多様な大人と関わり、主体性を発揮（酒田市立亀ヶ崎小学校）

主な取組

- ・ チーム学校での支援体制
- ・ 校内協議の場・時間の設定
- ・ 個別・柔軟な支援のための職員配置
- ・ 保護者や地域との協働促進
- ・ 職員室内の協働促進のための工夫 等

生徒指導提要との関係 . . . 第3章 チーム学校による生徒指導体制

紹介する実践事例の全体像

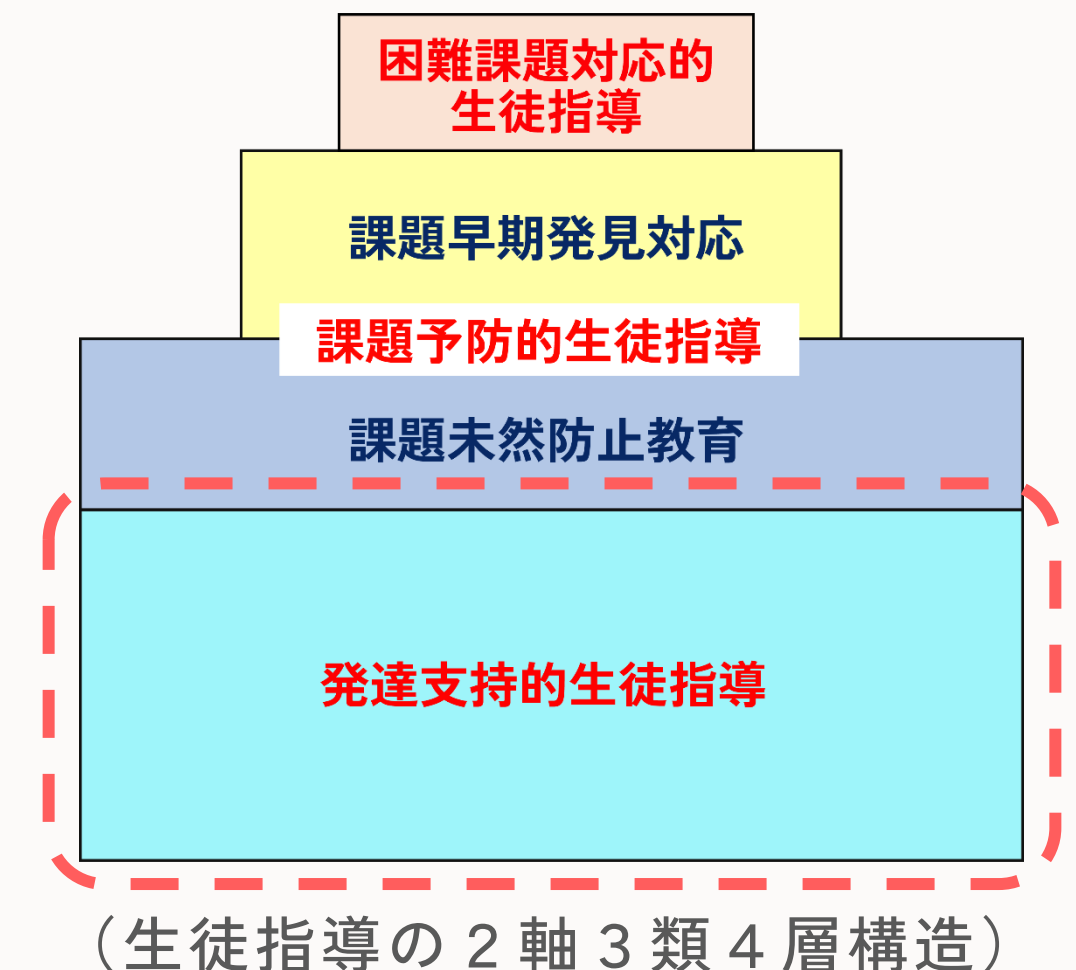
事例② 「全ての児童生徒への教育活動」

▶ 学年担任制により、生徒が多くの教職員と関わる機会を（美濃市立昭和中学校）

主な取組

- ・ 児童生徒間の関係性向上の取組
- ・ 学級風土改善の取組
- ・ 児童生徒の主体的な取組
- ・ 多様性を認め合う取組
- ・ 児童生徒の様子を複層的・細やかに見られる教育体制 等

生徒指導提要との関係 ・ ・ ・ 第1章 発達支持的生徒指導



紹介する実践事例の全体像

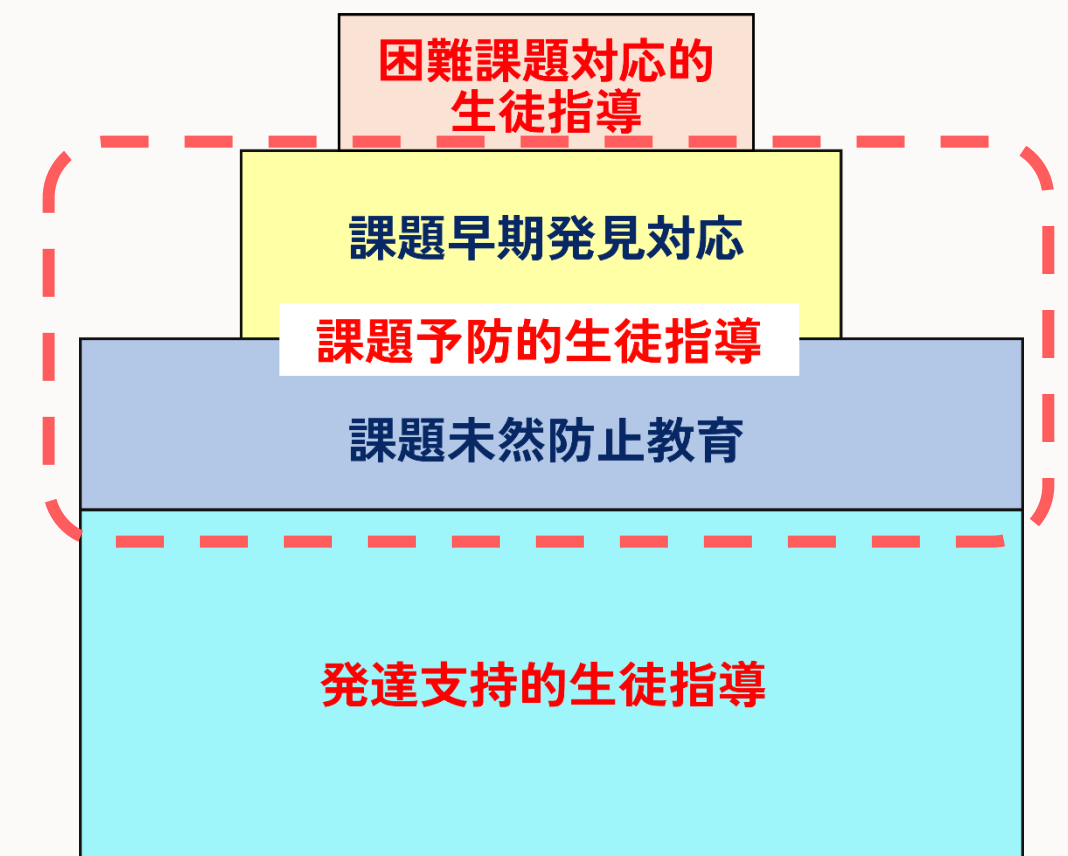
事例③ 「未然防止・早期対応」

▶ 小規模校の利点を活かした早期の家庭訪問といじめアンケートの活用（行橋市立今元中学校）

主な取組

- ・ 心の健康観察、いじめアンケート、学級風土等のアンケートの活用
- ・ 報告の判断基準の統一
- ・ 児童生徒の情報の共有ツール
- ・ 家庭訪問の早期実施 等

生徒指導提要との関係・・・ 第1章 課題予防的生徒指導



（生徒指導の2軸3類4層構造）

紹介する実践事例の全体像

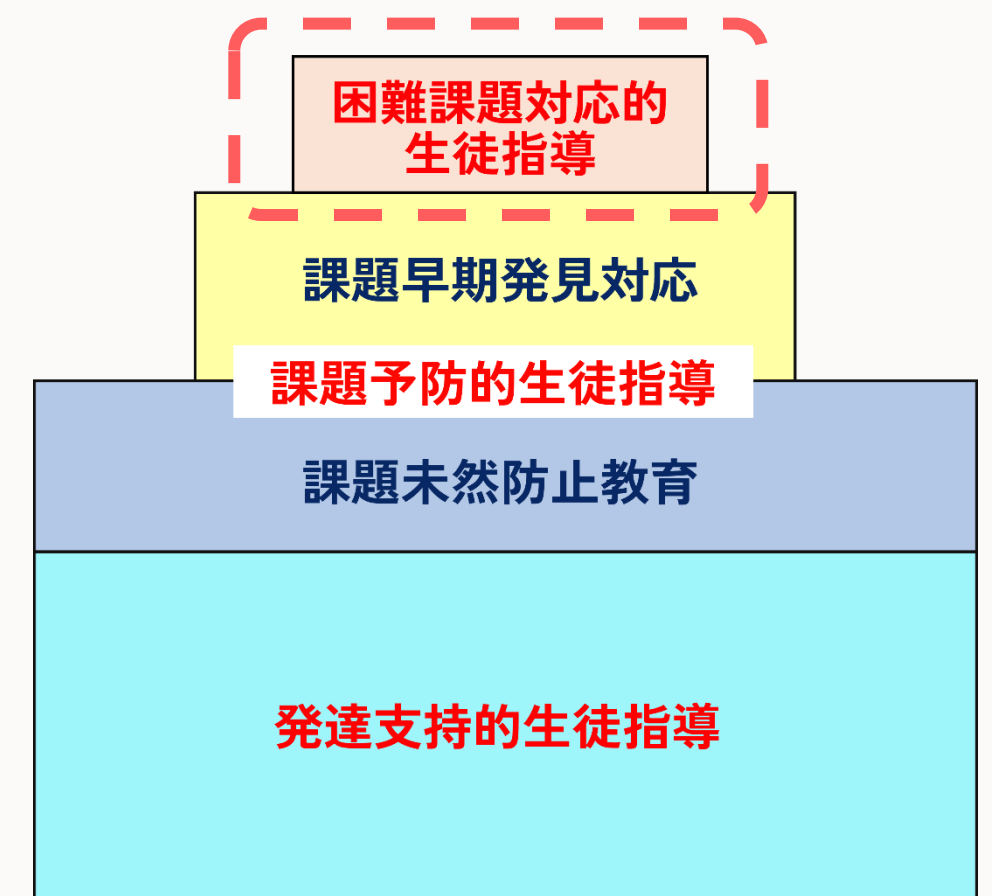
事例④ 「困難課題対応」

▶ 校内別室の段階的活用（栗東市立栗東西中学校）

主な取組

- ・ SCやSSWの活用
- ・ 校内別室の活用
- ・ 医療機関、民間団体等との連携 等

生徒指導提要との関係・・・第1章 困難課題対応の生徒指導



（生徒指導の2軸3類4層構造）

事例①

生徒指導における基盤・体制づくり（酒田市立亀ヶ崎小学校）

不登校の発生状況の5年間の傾向

その他

（低発生持続・低発生移行混合）

児童が多様な大人と関わり、主体性を発揮



取組開始の経緯・ねらい

- ・ 朝の時間帯に図書の貸出しを教員で対応していたが、忙しい時間帯でもあり負担が大きく一度は辞めてしまった。
- ・ しかし、児童から借りたいという声があがり、地域の方に貸出しボランティアを募って朝の本の貸出しを復活。



取組の内容・工夫

- ・ 本学区は農家や三世代同居等も多く、地域の方が児童のことをよく見ている。
- ・ 地域見守り隊による自主的な見守り活動や、貸出しボランティア、給食等の見守りボランティア等、地域の方が多く関わっており、学校にはほぼ毎日ボランティアの方が来ている。



取組の効果

- ・当初、教職員の中には地域ボランティアを募集することに懸念を持つ意見もあった。
お便りだけでは学校の様子が伝わりづらいところを保護者に直接見てもらうとよく伝わる等
メリットが感じられ、定着している。
- ・給食ボランティアを希望する学年から導入し、徐々に他学年にも広まり、
担任の負担軽減につながっている。
- ・地域のボランティアの理解と協力を得られることで、教員が自信を持って指導に当たれるようになるという意味でも、開かれた学校づくりは非常に重要である。



他にもこんな取組も！

- ・ 児童主体での行事づくり（「亀っ子スポーツフェスティバル」）
（運動会を、「競う」「勝つ」だけではない協力し合う楽しさを感じることを重視し、児童主体で種目を検討）

事例②

全ての児童生徒への教育活動（美濃市立昭和中学校）

不登校の発生状況の5年間の傾向

その他

（低発生持続・高発生移行混合）

学年担任制により、生徒が多くの教職員と関わる機会を

取組開始の経緯・ねらい

- ・「学級」担任制だと、担任によって学級間の取組に温度差が生じたり、生徒によっては自分の担任と合わないということが起きうる。
- ・こうした課題を改善するため、令和4年度より、全ての学年において「学年」担任制を導入した。

取組の内容・工夫

- ・各学年2クラスを4名の教職員で担当する体制としている。
（1クラスの学年は3名）
- ・ホームルームや授業、生徒への対応等、全ての活動において、4名の教職員で相談しながら対応の方針を決め、分担している



取組の効果

- ・ 担任が1人だと、その担任と合わない場合もある。学年担任制とし、多くの教職員と関わる機会を持つことで、生徒がそれぞれ話しやすい教職員と関わることもできるというメリットがある。
- ・ 教員にとっても、学級の責任を1人で背負い込まず、4人で相談しながら進められるため、特に若手教員には学びが大きいと感じている。



取組が定着できている理由

- ・ 令和5年度から校内研修を担当する研修主事を選任。校内研修の内容が充実してきた！
- ・ 生徒主体の取組については、「前例踏襲ではなく新しく自分たちが学校をつくっていく」という意識を生徒自身が持つことの大切さを伝えている。

写真提供：美濃市立昭和中学校

事例③

未然防止・早期対応（行橋市立今元中学校）

不登校の発生状況の5年間の傾向

低発生移行型

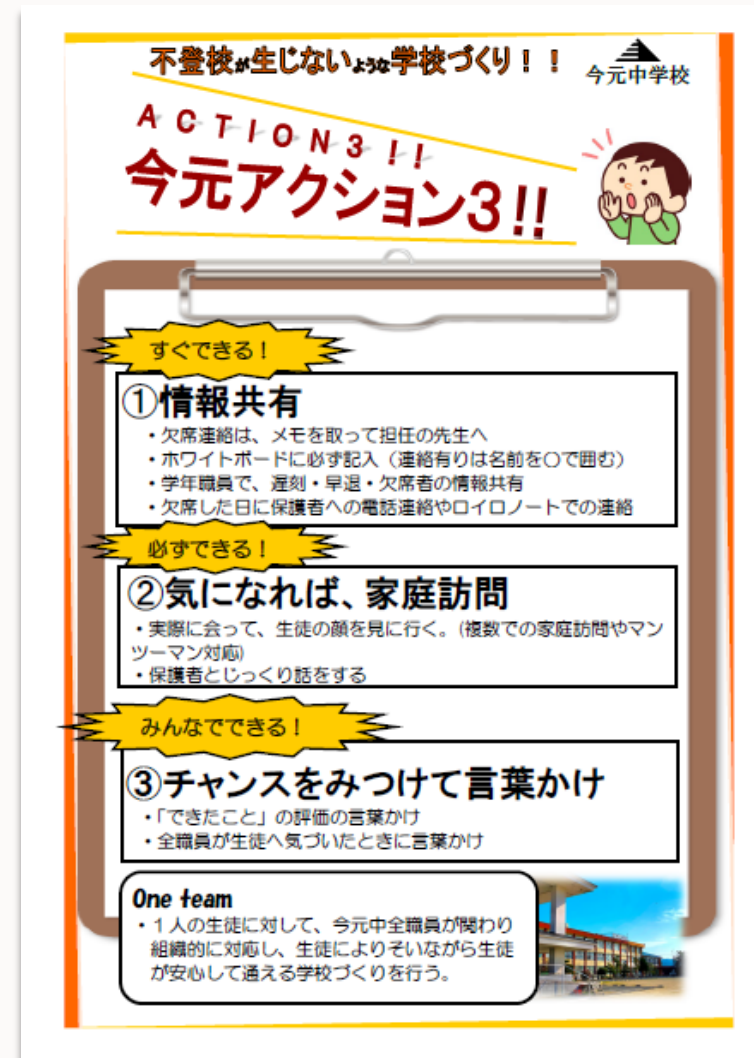
小規模校の利点を活かした早期の家庭訪問といじめアンケートの活用

取組開始の経緯・ねらい

- ・ 不登校の未然防止・早期発見に取り組むため、「今元アクション3」を策定。令和6年度は3つのうち1つを「気になれば家庭訪問」に変更した。
- ・ 不登校の背景や要因は生徒によって様々であるため、一人一人に応じた対応が必要と考え、全職員で情報共有、家庭訪問を積極的に行っている。
- ・ 不登校に関する取組だけでなく、いじめアンケートについても、生徒からのSOSの見落としを防ぐために実施している。

取組の内容・工夫

- ・ 家庭訪問は担任と学年代表等必ず複数名の教員で実施。
令和6年度からは、1日の欠席でも気になることがあればすぐ家庭訪問を実施している。
- ・ いじめアンケートは、生徒が自宅に持ち帰って記入し、封筒に入れて提出。
回答内容は学年代表が丁寧にダブルチェックしている他、アンケートで気になる点が見られた場合、定期の面談以外の時期であっても、必要に応じて個別相談を実施している。



取組が定着できている理由

- ・年度初めに校長から教員に対して、「職員室で学級の生徒の話をしてほしい」と声掛けをしている。職員室で生徒の情報が自然と共有されるよう促している。何かあれば教員同士で分担していこう、という雰囲気がある。
- ・また、令和3年度から、コミュニティスクールとなっており、「地域で子供を育てる」という意識は強い。

事例④

困難課題対応（栗東市立栗東西中学校）

不登校の発生状況の5年間の傾向

低発生持続型

校内別室の段階的活用



取組開始の経緯・ねらい

- 以前より校内教育支援センターでの支援を行ってきたが、教室定員を超えてしまうようになり、校内教育支援センター内の不応が生じかねない状況となっていた。
- 校内教育支援センター1か所に限らない新たな校内の居場所づくりを進める必要があった。



取組の内容・工夫

- 2種類の校内教育支援センター（10人ほどで過ごせる部屋と、1人で過ごせる部屋）と、各学年のフロアに「学年支援室」を設けている。学年支援室は、ケース会議を経て許可が出た生徒が利用でき、1日あたり2時間ほど、休んだり自習をしたりする場所として活用。
- 学級→学年支援室→校内教育支援センターという段階を意識して、生徒の様子に合わせて、ケース会議で相談しながら、過ごす場所を使い分けている。



取組の効果

- 生徒自身も段階を決めながらどの居場所で過ごすかを自己決定することができるようになっている。
- また、校内教育支援センターづくりだけでなく、チームとしての支援に向け生徒支援担当教員が中心となって取り組んでいる。

動画構成

CHAPTER 1

データから見る不登校支援等の特徴

各種調査の分析結果

CHAPTER 2

不登校支援等の実践事例

ヒアリングから見た支援事例の全体像 / 具体的な実践事例の紹介

CHAPTER 3

御自身の学校での実践に向けて

振り返りのポイントや参考資料の紹介

動画構成

CHAPTER 1

データから見る不登校支援等の特徴

各種調査の分析結果

CHAPTER 2

不登校支援等の実践事例

ヒアリングから見た支援事例の全体像 / 具体的な実践事例の紹介

CHAPTER 3

御自身の学校での実践に向けて

振り返りのポイントや参考資料の紹介

今後の実践に向けた振り返りのポイント

Q1 動画で紹介されていた事例の中で、特に印象に残った事例と、気になったポイントはどこですか。

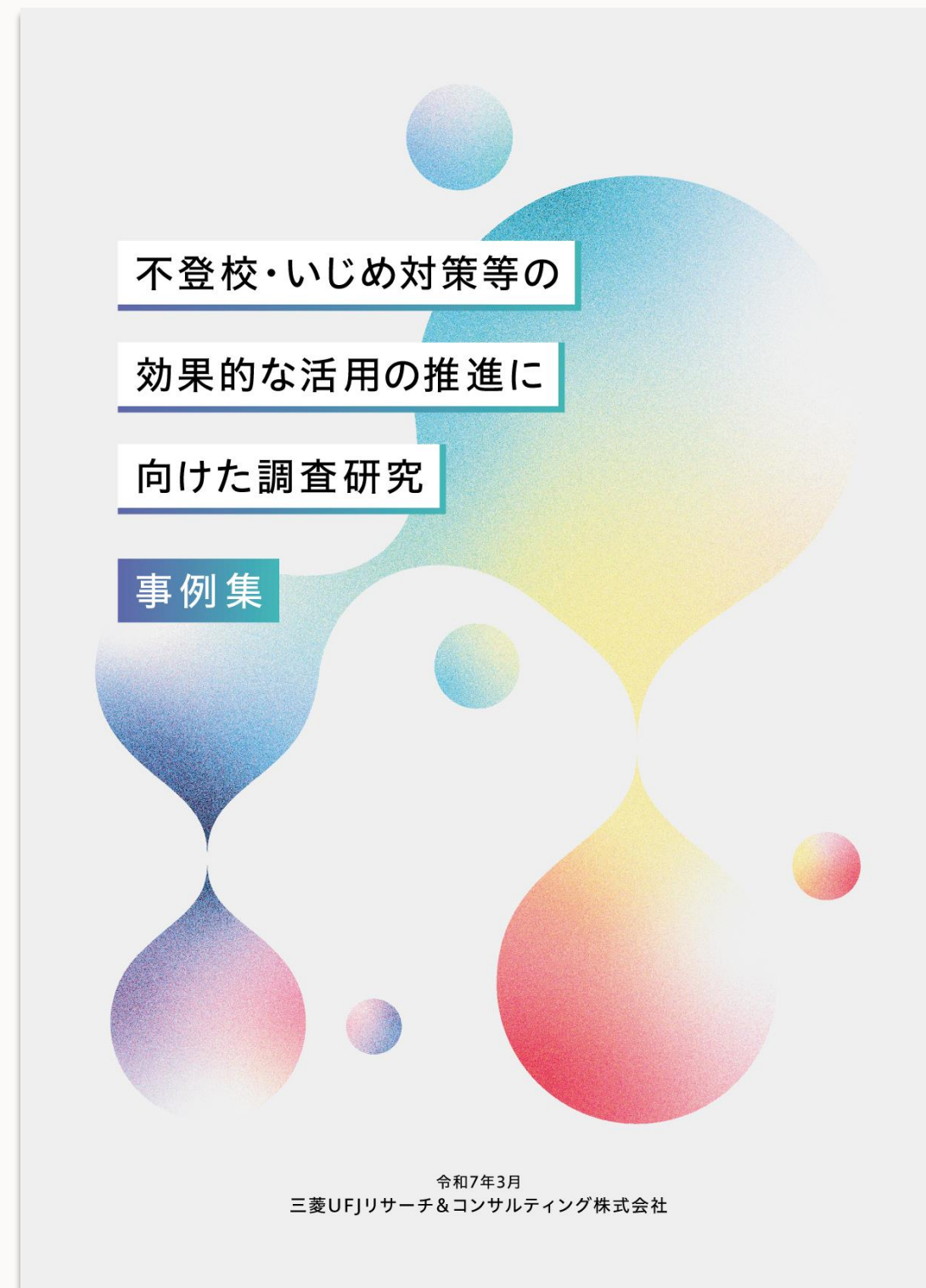
Q2 御自身の学校において、Q1のような取組を行う場合、障壁や課題になりそうなことはどんなことですか？

Q3 Q2の障壁や課題を解決するために、御自身が取り組みたいこと、周囲と一緒に取り組めそうなことはどんなことですか？

Q4 今回の動画を、学校内の他の教職員にすすめるなら、どのように表現しますか？

※御自身の学校と似ているところや、参照しやすいところ、必要性の高いところ等を中心に説明してください。

関連資料の紹介



本事業で作成した事例集では、
(不登校・いじめ対策等の効果的な活用の推進に向けた調査研究 事例集)
今回紹介した事例の詳細に加え、多数の事例を
紹介しています。

是非動画と併せて御覧ください。

関連資料の紹介

独立行政法人教職員支援機構（NITS）では、『生徒指導提要』の改訂をふまえたこれからの生徒指導の方向性についての解説動画を作成しています。
こちら併せて御覧ください。

